



# 野菜の細菌病に 実績あり!!

スターナは住友化学(株)の登録商標

野菜・  
その他の細菌病防除剤

**スターナ**<sup>®</sup>水和剤

# 野菜・その他の細菌病防除剤

# スターナ® 水和剤

【適用病害と使用方法】有効成分：オキシリニック酸・・・20.0%

殺菌剤分類 31

2023年3月現在の登録内容(太字は2022年11月24日適用拡大)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキシリニック酸を含む農薬の総使用回数									
ねぎ	軟腐病	2000	100~300ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内									
はくさい		1000														
レタス	軟腐病・腐敗病・斑点細菌病	2000						収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内					
非結球レタス	軟腐病・腐敗病	1000						収穫7日前まで	3回以内							
キャベツ	軟腐病・黒斑細菌病								5回以内							
たまねぎ	軟腐病	2000						収穫14日前まで	2回以内			散布	2回以内			
ブロッコリー	軟腐病・黒斑細菌病・花蕾腐敗病															
カリフラワー	軟腐病													1000	収穫前日まで	3回以内
はなっこりー																
ピーマン	軟腐病													2000	収穫7日前まで	5回以内
ばれいしょ																
だいこん																
セルリー																
パセリ																
エンダイブ																
さんとうさい	1000	2000	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内										
チンゲンサイ																
トレビス	萎凋細菌病	2000	100~300ℓ/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内									
ズッキーニ	軟腐細菌病	1000						収穫前日まで	3回以内							
未成熟とうもろこし	褐色腐敗病															
にんじん	軟腐病・斑点細菌病	2000						100~500ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内				
らっきょう	軟腐病															
アスパラガス	空胞病	1000~1500						25~180ℓ/10a	収穫10日前まで	2回以内	散布	2回以内				
たばこ		1000						100~300ℓ/10a	収穫14日前まで							
こんにゃく	腐敗病	30~100						種いも1m <sup>2</sup> 当り150mℓ	植付前	1回	種いも吹き付け処理	6回以内 (種いもへの吹き付けは1回以内、植付後は5回以内)				
		1000						200~400ℓ/10a	摘採7日前まで	2回以内	散布	2回以内				
茶	赤焼病							1000	100~300ℓ/10a	—			5回以内			
きく	斑点細菌病	30	球根100kg当り~3ℓ	定植前	1回	球根吹き付け処理	1回									
カラー	軟腐病															

●稲(もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病)、小粒核果類[すももを除く](かいよう病)、もも・ネクタリン(せん孔細菌病)、なし(枝枯細菌病)、すもも(かいよう病、黒斑病)にも登録があります。

## 上手な使い方

細菌性病害は薬剤防除だけでは十分な効果が得られないのが実情であり、スターナにおいても例外ではありません。したがって、可能な限りの耕種的防除と組み合わせ、**薬剤効果を高めることが重要です。**

スターナ散布においては・・・

- ①実用場面では病勢が進展してから散布では効果(治療的効果)が期待できないので、作物の生育ステージと気象条件を見ながら、**発病前からの散布(予防的防除)を徹底してください。**
  - ②1週間間隔の散布を基本とします。但し、降雨等の気象条件により病勢進展が早まることが予想される場合には、散布間隔を狭め、早めの散布を心がけてください。降雨後に散布する場合は、降雨後すぐの散布が効果的です。
  - ③一般的には本剤のみの防除に頼るのではなく、他に**有効薬剤があればそれらも活用**することをお勧めします。
- 以上を基本とし、具体的な作物ごとの使用にあたっては、各地域の指導を受けてください。

## 使用上の注意<抜粋>

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- カラーに吹き付け処理する場合、噴霧器を使用し、球根全体に薬液を付着させてください。また、薬剤処理後、風乾してから球根を定植してください。
- 野菜類の細菌病に使用する場合、多発条件下では効果が劣る例もみられるので注意してください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 誤飲、誤食などのないよう注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

## ■ねぎ：軟腐病

(社)埼玉県植物防疫協会(1998年)

スターナ水和剤 2000倍	17.8
無処理	31.8

発病株率(%) (調査日:9/17)

耕種概要：品種冬扇、播種3月13日、定植5月28日 病害発生状況：中発生  
処理：8月3日、16日、9月2日(土寄せ前)の3回、200ℓ~300ℓ/10a、展着剤加用  
調査方法：9月17日に発病株数を調査し、発病株率を算出

## ■はくさい：軟腐病

長野県野菜花き試験場(1985年)

スターナ水和剤 1000倍	9.7
A 剤 800倍	13.8
無処理	19.0

発病株率(%) (調査日:7/9)

耕種概要：品種春秋、定植5月19日 病害発生状況：中発生  
処理：6月12日、19日、26日の3回、300ℓ/10a  
調査方法：7月9日に発病株数を調査し、発病株率を算出

●使用前にラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は囲場等に放置せず適切に処理してください。

2023年3月作成 全農企画社 P3202303001